

目次

口絵

序

凡例

細目次

第一章	地方体制の確立と地域の対立	三
第一節	県制の実施	三
第二節	郡制の実施	一五
第三節	市制・町村制の実施	三一
第四節	地域の対立と行政争訟	四九
第二章	政党勢力の拡大	七九
第一節	帝国議会開設後の政党勢力の台頭	七九

一	自由党の勢力拡大	七九
二	立憲改進黨と尾西・豊橋地方への進出	一〇〇
第二節	政友会の成立と展開	一一一
一	「大政友会」の成立	一一一
二	政友会の優勢と動搖	一二一
第三節	地方名望家と政党	一三九
一	地方名望家加藤六蔵と地域振興（議会活動・教育・鉄道）	一三九
二	愛知県下の地価修正運動と地租増徴問題	一四九
第三章	濃尾地震と政治・行政	一六九
第一節	地震の発生	一六九
一	地震直後の被害報告	一六九
二	初期救護活動の展開	一八一
三	被災者の救済と備荒儲蓄金	一九〇
第二節	国家的、国民的の一体感の形成—恩賜金をめぐって	二〇二
第三節	復興をめぐる政治・行政	二一八

一	防災への視点	二二八
二	北海道移住問題	二二七
三	地租延納と東春日井郡の紛擾	二三〇
四	復旧工事の進捗	二三九
第四章	地域基盤の整備	二五一
第一節	鉄道網の整備―中央線の誘致と県内の鉄道計画	二五一
一	中央線をめぐる県内の動き	二五一
二	県内各地の地域構想と鉄道計画	二六一
第二節	港湾の整備―武豊港と熱田築港	二八九
第三節	木曾川下流改修工事の進展	三一五
第五章	郷土意識とその政治化	三四一
第一節	郷土意識の形成と政治的役割	三四一
一	三河郷友会と三河の郷土意識	三四一
二	郷土意識の政治化―三河分県論の再燃	三四七
三	額田県再置運動の展開と挫折	三五七

四 「郷土愛知」の完成と尾張の郷土意識	三七六
第二節 岡崎・中村・清洲公園と愛知県	三八三
一 岡崎城の公園化	三八三
二 豊国会と中村	三八四
三 清洲城址保存会	三九三
四 三大公園の整備	三九五
第三節 国民国家と文化財の創出―愛知県における文化財調査	四〇三
一 臨時全国宝物取調局の愛知県調査	四〇三
二 古社寺保存法と愛知県	四〇八
三 名古屋離宮としての名古屋城	四一四
第六章 地域社会の管理と衛生・医療・性	四二三
第一節 警察制度の一断面―治安対策と衛生	四二三
第二節 衛生行政の展開と地域社会	四四一
一 伝染病の流行と衛生行政	四四一
二 医療制度の整備	四五六

第三節 遊郭の管理	四八六
一 税金をめぐる対立	四八六
二 移転をめぐる対立	四九二
三 性風俗業の管理	五〇一
第七章 帝国化の中での軍事行政	五一五
第一節 第三師団の成立	五一五
第二節 陸軍演習の本格化	五二六
第三節 軍事行政の展開と混乱	五四一
第四節 徴兵慰労会の活動の破綻	五六〇
第八章 日清戦争への対応とその影響	五七九
第一節 開戦と戦争への対応	五七九
第二節 軍事徴発と軍資献納	五八五
一 義勇軍運動	五八五
二 軍役夫動員	五八九
三 馬匹徴発の本格化	五九九

四	軍資献納と軍事公債募集	六〇八
第三節	捕虜	六一五
第四節	戦争の終結	六四二
一	戦捷祝賀会	六四二
二	軍役夫の処遇	六四六
三	従軍者家族の救護	六五二
四	軍事思想強化	六五六
第九章	日露戦争と帝国体制	六六三
第一節	日露戦争開戦とその後の推移	六六三
一	開戦と戦意昂揚	六六三
二	宣戦布告と国際法	六七一
三	捕虜の処遇	六七三
第二節	戦争の進行と動員の拡大	六八〇
一	動員の拡大	六八〇
二	軍資献納と公債応募	六八二

三	軍事郵便	六九七
四	下賜金の交付	七〇二
第三節	戦争の諸矛盾と行政の対応	七〇七
一	地域社会への影響	七〇七
二	動員態勢の長期化	七一六
三	碧海郡西端村にみる戦病死者葬儀	七二〇
四	出征軍人遺家族の困窮とその救護	七二六
第四節	戦争の終結	七四一
一	戦争の終結	七四一
二	戦後の遺家族援護	七四五
第十章	戦争の記念・記憶化という政治	七五三
第一節	日清戦争と戦争の記念・記憶化	七五三
一	戦争報道と戦争の記憶化	七五三
二	戦没者慰霊と「美談」の収集	七六五
三	戦争記念碑建設活動	七八一

第二節 日露戦争と戦争の記念・記憶化……………七九六

一 戦果の展示……………七九六

二 戦没者慰霊をめぐって……………八〇五

三 記念活動と都市計画……………八一七

解 説……………八二一

頻出・難読語句一覧

あとがき

資料提供者及び協力者

愛知県史編さん関係者名簿

細目次

第一章 地方体制の確立と地域の対立

第一節 県制の実施

- 1 府県制施行についての報告
一八九二年(明治二十五)九月二十九日…………… 3
- 2 県制実施の建議
一八九二年(明治二十五)三月三十一日…………… 3
- 3 県制実施延期の建議
一八九二年(明治二十五)四月一日…………… 4
- 4 市郡会計分別についての名古屋市参事会上申
一八九二年(明治二十五)十二月二十二日…………… 6
- 5 郡市経済分離の義についての名古屋市長請願
一八九三年(明治二十六)一月二十八日…………… 8
- 6 愛知特別県制施行反対についての請願
一八九二年(明治二十五)四月二十七日…………… 10

第二節 郡制の実施

- 7 郡制施行順序
一八九一年(明治二十四)三月三十日…………… 15
- 8 東加茂郡役所功程書(抄)
一八八八年(明治二十)一—一八九四年(明治二十七)
…………… 16
- 9 海東海西二郡合併についての建議
一八九一年(明治二十四)四月十二日…………… 21
- 10 葉栗郡役所位置変更についての建議
一八九一年(明治二十四)七月四日…………… 22

- 11 愛知県他の郡制実施についての通達
一八九一年(明治二十四)三月三十一日…………… 23

- 12 碧海郡長市川一貫の進退伺
一八八八年(明治二十)六月十八日…………… 23

- 13 大地主選挙取消についての訴
一八九三年(明治二十)九月二十一日…………… 24

- 14 予算議案違法についての訴
一八九二年(明治二十五)七月八日…………… 26

第三節 市制・町村制の実施

- 15 中島郡目比村通信
一八八九九年(明治二十)六月七日…………… 31

- 16 碧海郡牛橋村通信
一八九〇年(明治二十)一月八日…………… 31

- 17 愛知郡沓掛村通信
一八九〇年(明治二十)一月十六日…………… 32

- 18 津島通信
一八九〇年(明治二十)七月三十日…………… 32

- 19 市制町村制施行期日・市役所町村役場名称位置についての
県令
一八八九年(明治二十)九月二十四日…………… 33

- 20 町村制に関する知事内訓案
一八八八年(明治二十)六月二十八日…………… 34

- 21 愛知郡寛政村公民總會条例
一八八九年(明治二十)十一月二十九日…………… 35

- 22 愛知郡島野村長有給条例
一八八九年(明治二十)十二月六日…………… 36

- 23 愛知郡鳴尾村長有給条例
一八八九年(明治二十)十一月二十一日…………… 37

- 24 愛知郡八幡村長有給条例
一八八九年(明治二十)十一月二十七日…………… 37

25	東加茂郡伊勢神村区総会条例副申 一八九三年(明治二十六年)三月九日……………	38
26	東加茂郡足助村長有給条例 一八八九年(明治二十二年)六月二十三日……………	39
27	東加茂郡足助村区会条例ならびに区総会条例 一八八九年(明治二十二年)六月二十七日……………	40
28	東加茂郡下山村会議員増加条例 一八八九年(明治二十二年)一月二十八日……………	42
29	分村論愈々貫徹す 一八九〇年(明治二十三年)十月八日……………	43
30	渥美郡福江村の訴願 一八八九年(明治二十二年)十一月十六日……………	43
31	村会議員選挙取消処分についての訴 一八九六年(明治二十九年)六月十七日……………	44
第四節 地域の対立と行政争訟		
32	町村合併についての意見書(渥美郡宇津江村) 一八八八年(明治二十一年)十月二十四日……………	49
33	村制ノ為メ合併村ヲ分離セシムル請願書(海東郡万須田村) 一八八九年(明治二十二年)十一月十五日……………	54
34	渥美郡伊良湖村の分村願 一八九〇年(明治二十三年)七月九日……………	56
35	海西郡東西両部の確執 一九〇〇年(明治三十三年)三月七日……………	59
36	郡界変更についての内務大臣指令 一八九八年(明治三十一年)十二月二十八日……………	60
37	鳴海・有松両町境界変更についての意見書 一九〇六年(明治三十九年)六月……………	63
38	村界争論についての訴(西春日井郡落合村) 一八九二年(明治二十五年)三月十四日……………	67

39	歎願書(宝飯郡御馬村) 一八八九年(明治二十二年)十月十八日……………	70
40	再情願書(渥美郡神戸村) 一八八九年(明治二十二年)十月三十一日……………	72
41	町村制之義ニ付請願書(葉栗郡富塚村) 一八八九年(明治二十二年)九月三十日……………	73

第二章 政党勢力の拡大

第一節 帝国議会開設後の政党勢力の台頭

一 自由党の勢力拡大

42	愛知県の政党・政社の状況(高等警察調査) 一八九〇年(明治二十三年)……………	79
43	自由党と改進黨の激しい対立 一八九三年(明治二十六年)十月十七日……………	82
44	自由党愛知支部の発足 一八九三年(明治二十六年)十月二十四日……………	85
45	自由党愛知支部発会式 一八九三年(明治二十六年)十月二十六日……………	86
46	自由党小室重弘の立候補宣言書 一八九四年(明治二十七年)二月二十七日……………	88
47	自由黨員同士の立候補争い 一八九八年(明治三十一年)三月十日……………	90
48	品川弥二郎宛早川龍介書簡(隈板内閣崩壊を喜ぶ早川龍介) 一八九八年(明治三十一年)十月二十八日……………	91
49	憲政党愛知支部の設立 一八九八年(明治三十一年)七月十七日……………	92
50	憲政党三河支部の設立 一八九八年(明治三十一年)七月十七日……………	93

51	非政党候補鈴木摠兵衛を擁立する名古屋財界 一八九八年(明治三十二)七月二十九日……………	94
52	内藤魯一の板垣退助への質問書(草案) 一八九八年(明治三十二)三月三十一日……………	96
二 立憲改進黨と尾西・豊橋地方への進出		
53	島田三郎一行遊説に関する案内状 一八九二年(明治二十五)九月……………	100
54	島田三郎遊説についての立憲改進黨愛知県海東西郡地方委員日誌 一八九二年(明治二十五)九月二十二日……………	100
55	鈴木仙太郎ほか宛首藤陸三書簡(島田三郎一行遊説歓迎に対する礼状) 一八九二年(明治二十五)十月四日……………	101
56	明治二十五年九月立憲改進黨員名簿 一八九二年(明治二十五)九月……………	102
57	鈴木仙太郎宛都築孝成書簡(貴地黨員名簿送付の件) 一八九二年(明治二十五)十月十六日……………	104
58	吉田甚平・鈴木仙太郎宛首藤陸三書簡(島田三郎ほか遊説日程の件) 一八九三年(明治二十六)五月十日……………	105
59	津島町・蟹江町の演説および懇親会 一八九三年(明治二十六)六月二十日……………	106
60	豊橋町の演説および懇親会 一八九三年(明治二十六)六月二十日……………	107
61	豊橋町における改進黨懇話会 一八九三年(明治二十六)八月七日……………	107
62	吉田甚平・岡本精三・鈴木仙太郎宛首藤陸三書簡(愛知県第六区候補者選定の件) 一八九四年(明治二十七)一月十四日……………	108

63	真野守之助・鈴木仙太郎宛尾崎行雄書簡(貴地立寄り謝絶の件) 一八九四年(明治二十七)九月十三日……………	109
64	鈴木仙太郎宛島田三郎・鳩山和夫・高田早苗書簡(解党直前の総会に出席の上決議案に賛成依頼) 一八九六年(明治二十九)二月二十三日……………	109
第二節 政友会の成立と展開		
一 「大政友会」の成立		
65	商工業家に勧む 一八九九年(明治三十二)六月十五日……………	111
66	伊藤博文大歓迎会 一八九九年(明治三十二)六月十五日……………	113
67	西加茂郡における憲政党・帝国党兩派 一九〇〇年(明治三十三)三月十一日……………	114
68	憲政党支部の統一 一九〇〇年(明治三十三)四月六日……………	116
69	加藤六蔵宛大口喜六書簡(憲政本党勢力の危機) 一九〇〇年(明治三十三)九月十三日……………	116
70	政友会愛知支部の成立 一九〇〇年(明治三十三)十一月一日……………	118
71	政友会愛知支部創立総会 一九〇〇年(明治三十三)十一月二日……………	120
二 政友会の優勢と動搖		
72	愛知政友会の行動について(支部脱会騒動) 一九〇一年(明治三十四)六月六日……………	121
73	政友会愛知支部脱会騒動に関する『政友』記事 一九〇一年(明治三十四)六月十七日……………	122

74	県会議員取賄事件 一九〇二年(明治三十五)四月十八日……………	123
75	政党の状況(高等警察事務引継書) 一九〇二年(明治三十五)五月二十日……………	125
76	鈴木仙太郎宛福岡精一書簡(鈴木仙太郎に選挙協力を求める福岡精一) 一九〇二年(明治三十五)五月二十七日……………	129
77	伊藤大八・小池靖一宛志賀重昂書簡(志賀重昂の政友会本部への調停依頼) 一九〇二年(明治三十五)七月十日……………	130
78	大選挙区制の影響 一九〇二年(明治三十五)八月十日……………	131
79	大選挙区制の総選挙における愛知政友会の大勝 一九〇二年(明治三十五)八月十四日……………	132
80	政友会愛知支部の選挙委員会設置 一九〇三年(明治三十六)一月二十五日……………	134
81	県会における政友会の分裂 一九〇三年(明治三十六)十月二十日……………	135
82	県会における政友会と同志倶楽部の拮抗と混乱 一九〇三年(明治三十六)十月三十日……………	136
83	非政友派による鈴置倉次郎の推薦 一九〇四年(明治三十七)二月六日……………	137

第三節 地方名望家と政党

一 地方名望家加藤六蔵と地域振興(議会活動・教育・鉄道)

84	加藤六蔵宛大江卓書簡(取引所法修正案確定希望の件) 一九〇三年(明治三十六)一月二十日……………	139
85	名古屋における高等学校増設欲求 一九〇九年(明治三十二)二月二十三日……………	139

86	加藤六蔵宛尾崎雄書簡(高等学校設立困難の旨回答) 一九〇九年(明治三十二)七月三十一日……………	142
87	加藤六蔵宛内藤魯一ほか書簡(高等学校設立につき協議) 一九〇一年(明治三十四)一月八日……………	142
88	加藤六蔵宛大口喜六書簡(時習館中学県立移管問題について自由党を批判) 一九〇九年(明治三十二)十一月十七日……………	143
89	大口喜六と時習館中学県立移管問題 一九〇〇年(明治三十三)一月二十日……………	144
90	東参鉄道却下につき再考を求める請願 一九〇四年(明治二十七年)六月二十日……………	144
91	加藤六蔵宛大口喜六書簡(中央線より豊橋へ鉄道連絡のため調査委員選挙の件) 一九〇〇年(明治三十三)十二月十九日……………	146
92	加藤六蔵宛大口喜六書簡(中央鉄道と豊川線連絡の集会につき出席依頼) 一九〇一年(明治三十四)一月五日……………	147
93	参信鉄道期成同盟会結成 一九〇一年(明治三十四)一月十日……………	148
二 愛知県下の地価修正運動と地租増徴問題		
94	地価修正請願同盟会大会についての加藤六蔵道中日誌下書 一九〇一年(明治二十四)五月……………	149
95	海東郡地主同盟会設立 一九〇一年(明治二十四)六月六日……………	150
96	愛知県地価修正請願同盟規約の決定 一九〇一年(明治二十四)六月九日……………	150
97	愛知県地価修正派委員会の決議 一九〇八年(明治三十一年)七月十七日……………	152
98	海東西郡憲政黨員大会および海東郡地価修正同盟会議 一九〇八年(明治三十一年)七月二十九日……………	152

99	鈴木仙太郎宛黒田文之輔書簡（第六区候補者青樹英二君推撰状草稿返却の件）	153
100	本県地価修正委員大会の決議	155
101	鈴木仙太郎宛末松謙澄・星亨・片岡健吉書簡（財政計画說明のため片岡健吉ほか派遣）	155
102	地租増徴賛成の憲政党を擁護する『新愛知』	156
103	鈴木仙太郎宛憲政本党本部総務委員書簡（地租増徴反対遊説のため三浦梧楼派遣）	158
104	加藤六蔵宛三浦梧楼・大隈重信書簡（関西非増租大会尽力への礼状）	159
105	安部井磐根宛大口喜六書簡（憲政本党勢力を誇示し明日の豊橋到着を希望）	159
106	加藤六蔵宛大口喜六書簡（増税案等政治情勢について伺い）	160
107	加藤六蔵宛大口喜六書簡（憲政本党分裂についての意見）	161
108	加藤六蔵宛大隈重信書簡（憲政本党への復党要請）	163
109	加藤六蔵宛大竹貫一書簡（第八回総選挙への出馬依頼）	164
110	加藤六蔵宛大口喜六書簡（第八回総選挙の推薦決定・出馬依頼）	164

第三章 濃尾地震と政治・行政

第一節 地震の発生

一 地震直後の被害報告

111	名古屋測候所の報告	169
112	愛知憲兵隊の震災報告	172
113	内務大臣から総理大臣への地震景況報告（抄）	176
114	県知事から内務大臣への震災についての上申	177
115	名古屋測候所の観測および各地景況（抄）	178
116	物品買占め等を禁ずる知事諭達	181
117	震災についての県庁の措置	181
118	第三師団報告「名古屋地方景況」	183
119	食料を給付する戸数他の報告要請	184
120	中央備荒儲蓄金より補助金下附	185
121	愛知岐阜両県震災救護の実態（抄）	185

三 被災者の救済と備荒儲蓄金

122	愛知岐阜両県代議士の会合 一八九一年(明治二十四)十一月十八日……………	190
123	郡部備荒儲蓄金特別給与法 一八九一年(明治二十四)十二月一日……………	191
124	震災窮民への小屋掛料支給 一八九一年(明治二十四)十二月二日……………	191
125	震災に関する県会への協議会 一八九一年(明治二十四)十一月十七日……………	192
126	岡山市孤児院からの孤児救済の申し入れ(抄) 一八九一年(明治二十四)十一月二十二日……………	193
127	県内各方面からの救済請願 一八九一年(明治二十四)十二月八日……………	194
128	震災被害地の救助策 一八九一年(明治二十四)十二月十三日……………	195
129	上京委員の運動 一八九一年(明治二十四)十二月十四日……………	197
130	震災救済の食料小屋掛料救済標準 一八九一年(明治二十四)十二月二十一日……………	198
131	震災罹災者への義捐金の仕払、 一八九二年(明治二十五)頃……………	199
132	中島郡一宮町からの御料材払下願 一八九二年(明治二十五)三月十八日……………	200
133	明治天皇・皇后からの下賜金 一八九一年(明治二十四)十一月一日……………	202
<p>第二節 国家的、国民的の一体感の形成―恩賜金をめぐって</p>		
134	愛知岐阜両県下非常震災に付両陛下より罹災者へ御救恤金 下賜の件 一八九二年(明治二十五)一月十四日……………	202
135	岐阜愛知両県下震災被害の学校へ両陛下より恩賜金を以て賜 一八九二年(明治二十五)二月二十日……………	205
136	悪むべき商人 一八九一年(明治二十四)十一月一日……………	207
137	松方首相の被災地視察(抄) 一八九一年(明治二十四)十一月三日……………	209
138	県民総代の謝恩 一八九一年(明治二十四)十一月八日……………	211
139	華族の義捐金に就て 一八九一年(明治二十四)十一月八日……………	212
140	皇后の仁慈 一八九一年(明治二十四)十一月十二日……………	213
141	皇太后から被災者へ下賜金 一八九一年(明治二十四)十一月十五日……………	213
142	皇太后の視察と救恤金(抄) 一八九一年(明治二十四)十一月十七日……………	213
143	最近問題一束 一八九二年(明治二十五)二月二十七日……………	215
<p>第三節 復興をめぐる政治・行政</p>		
<p>一 防災への視点</p>		
144	市区を改正せよ 一八九一年(明治二十四)十一月三日……………	218
145	震災を避くる方法なき乎 一八九一年(明治二十四)十一月五日……………	218

158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146
東春日井郡における震災地租延納事件 一八九五年(明治二十八)……………	地租滞納に関する内務部長照会 一八九四年(明治二十七)五月―六月……………	震災による修正地価での地租徴収願 一八九二年(明治二十五)八月三十一日……………	震災地方租税特別処分法 一八九二年(明治二十五)六月十三日……………	郡部地方税特別減免法・市部地方税特別減免法 一八九二年(明治二十五)五月十八日……………	営業税雑種税特免についての名古屋商業会議所意見書 一八九一年(明治二十四)十二月一日……………	罹災につき地租免除の歎願 一八九一年(明治二十四)十一月……………	濃尾震災罹災者を屯田兵に採用する通牒 一八九四年(明治二十七)三月十四日……………	北海道移住勧誘について注意を促す照会 一八九一年(明治二十四)十二月五日……………	愛知岐阜両県罹災民の北海道移住 一八九一年(明治二十四)十一月二十八日……………	善後の策吾人の望 一八九一年(明治二十四)十一月三日……………	地震取調局の設置についての建議案(抄) 一八九一年(明治二十四)十二月十七日……………	建築学の大試験場 一八九一年(明治二十四)十一月五日……………
237	235	235	233	232	232	230	229	228	228	227	223	221

二 北海道移住問題

三 地租延納と東春日井郡の紛擾

四 復旧工事の進捗

168	167	166	165	164	163	162	161	160	159
中央鉄道速成についての名古屋商業会議所開申 一八九八年(明治三十)九月十二日……………	中央鉄道敷設線路についての県会の建議 一八九二年(明治二十五)十二月十二日……………	従八王子経伊那至名古屋 中央鉄道の必要 一八九二年(明治二十五)十二月……………	中央鉄道会の陳情書 一八九二年(明治二十五)十二月……………	予定鉄道線路敷設の儀についての名古屋市長請願 一八九二年(明治二十五)十二月……………	愛知岐阜両県震災費に関する意見照会 一八九三年(明治二十)四月十五日……………	濃尾震災及び水害の復旧工事費他補助についての建議 一八九二年(明治二十五)十二月十七日……………	震災救済及堤防費についての告示 一八九一年(明治二十四)十一月二十八日……………	愛知岐阜両県へ臨時土木費支出の理由 一八九一年(明治二十四)十一月十二日……………	河川堤防工事についての勅令 一八九一年(明治二十四)十一月十一日……………
262	262	253	252	251	244	241	240	239	239

第四章 地域基盤の整備

第一節 鉄道網の整備―中央線の誘致と県内の鉄道計画

一 中央線をめぐる県内の動き

二 県内各地の地域構想と鉄道計画

169	津島地方の鉄道運動 一八九二年(明治二十五)十二月十四日……………	265
170	尾西鉄道敷設の地方への影響 一八九五年(明治二十八)十月二十五日……………	266
171	名古屋・富山間の鉄道 一八九五年(明治二十八)十二月……………	269
172	名古屋・富山間鉄道についての富山商業会議所の調査 一八九六年(明治二十九)三月……………	270
173	尾張鉄道株式会社発起並鉄道敷設 一八九七年(明治三十)三月三十一日……………	274
174	豊川鉄道に対する競願線についての追伸書 一八九四年(明治二十七)五月……………	277
175	豊橋商業会議所の信參鉄道敷設建議 一八九五年(明治二十八)五月……………	280
176	西三河の信三鉄道創立申請書・創立会議事項 一九〇〇年(明治三十三)……………	281
177	豊橋商業会議所の鉄道敷設法中追加の建議 一九〇〇年(明治三十三)十二月……………	287
178	第二節 港湾の整備―武豊港と熱田築港 武豊港開港について武豊村其他上陳書 一八九一年(明治二十四)二月……………	289
179	熱田港築港調査の県会建議 一八九四年(明治二十七)十二月三日……………	292
180	商業上の新紀元 一八九五年(明治二十八)六月……………	293
181	県会で最初の築港事業費についての県会での審議 一八九六年(明治二十九)二月二十四日……………	296
182	県会で最初の築港事業費を議決 一八九六年(明治二十九)二月二十八日……………	301
183	知多半島運河開鑿の建議 一八九六年(明治二十九)三月三日……………	303
184	熱田築港の国庫補助不許可に対する県会の答申 一八九六年(明治二十九)八月三十日……………	305
185	熱田港の開港場指定を求める県会建議 一八九六年(明治二十九)十二月二十三日……………	306
186	熱田築港につき大隈重信宛江木千之書簡 一八九八年(明治三十)七月七日……………	308
187	武豊港につき大隈重信宛小栗富治郎ほか書簡 一八九八年(明治三十)十月九日……………	309
188	県会での熱田築港中止の建議否決 一八九九年(明治三十二)十二月十四日……………	311
189	熱田港築港事業費等についての県債の募集 一九〇三年(明治三十六)十一月二十五日……………	313
190	第三節 木曾川下流改修工事の進展 震災によりさらに重くなる県民の負担 一八九二年(明治二十五)六月五日……………	315
191	木曾川改修工事速成願の要旨陳述書 一八九二年(明治二十五)九月……………	317
192	治水会沿革概要 一八九四年(明治二十七)六月二日……………	320
193	矢作川改修期成同盟会の設立 一八九九年(明治三十二)十二月五日……………	326
194	木曾川改修工事沿革 一九〇〇年(明治三十三)七月七日……………	326
195	庄内川改修工事施行請願 一九〇〇年(明治三十三)二月―五月……………	334

196	庄内、矢作、豊川三川改修意見書提出の建議	190一年(明治三十四)十二月九日	336
-----	----------------------	-------------------	-----

第五章 郷土意識とその政治化

第一節 郷土意識の形成と政治的役割

一 三河郷友会と三河の郷土意識

197	三河郷友会雑誌発行趣意書(抄)	一八八八年(明治二十)十二月二十五日	341
198	青木耕作「三河郷友会は家族主義なり」	一八八九年(明治二十)一月二十七日	343

二 郷土意識の政治化―三河分県論の再燃

199	早川龍介の大隈重信宛協力依頼	一八八九年(明治二十)一月二十七日	347
200	早川龍介の勝海舟宛意見書(下書)	一八八九年(明治二十)二月五日	350
201	岡崎三陽大懇親会・東三倶楽部懇親会の景況	一八八九年(明治二十)三月三日	352
202	志賀重昂「在郷在京両部会員小集会席上演説」	一八八九年(明治二十)五月二十八日	354

三 額田県再置運動の展開と挫折

203	三河分県についての建白書(写)	一八九〇年(明治二十三)一月二十四日	357
204	三河分県の是非	一八九〇年(明治二十三)二月十一日	359

205	愛知県・長野県の分県についての中央の動向	一八九〇年(明治二十三)四月／六月	364
-----	----------------------	-------------------	-----

三河国分県についての追申書(写)

206	三河国分県についての追申書(写)	一八九〇年(明治二十三)五月十六日	369
-----	------------------	-------------------	-----

参河国再置県の第二請願

207	参河国再置県の第二請願	一八九二年(明治二十五)	373
-----	-------------	--------------	-----

帝国議会における額田県再置の否決

208	帝国議会における額田県再置の否決	一八九二年(明治二十五)三月二十七日	374
-----	------------------	--------------------	-----

四 「郷土愛知」の完成と尾張の郷土意識

209	愛知県の前途に就て	一八九二年(明治二十五)四月二十六日	376
210	尾張郷友会の成立とその抱負(抄)	一八九七年(明治三十)四月十日	377
211	金城倶楽部の設立	一八九七年(明治三十)十月十日	382

第二節 岡崎・中村・清洲公園と愛知県

一 岡崎城の公園化

212	東照宮誕辰祭における社寺宝物展覧についての伺	一八九一年(明治二十四)十二月十六日	383
213	岡崎公園処分についての県会での決議	一八九五年(明治二十八)十二月三日	383

二 豊国会と中村

214	豊国神社創建願	一八八三年(明治十六)六月十四日	384
215	豊公三百年祭と中村	一八九七年(明治三十)四月九日	386

216	豊国会と小室重弘代議士 一八九七年(明治三十)四月十日……………	386
217	名古屋における豊国会大会 一八九七年(明治三十)七月二十八日……………	387
218	尾張国愛知郡中村豊太閤旧趾の修築 一八九七年(明治三十)七月……………	388
219	寄付金募集計画についての知事書状(抄) 一八九八年(明治三十一)一月十二日……………	390
220	中村における豊公三百年祭 一八九八年(明治三十一)五月……………	392
三 清洲城址保存会		
221	清洲城址保存会発起諸氏の集会 一八九九年(明治三十二)九月二十一日……………	393
222	清洲城址保存の主意と規則 一八九九年(明治三十二)十一月五日……………	393
四 三大公園の整備		
223	愛知郡織豊村土地寄付採納についての県会での質疑 一九〇一年(明治三十四)一月二十一日……………	395
224	中村公園費についての郡部会での質疑 一九〇一年(明治三十四)十二月十一日……………	397
225	清洲および岡崎古城趾を公園とする意見書 一九〇一年(明治三十四)十二月二十四日……………	399
226	三公園整備についての知事の施政方針演説 一九一七年(大正六)十一月二十六日……………	401
第三節 国民国家と文化財の創出―愛知県における文化財調査		
239	特別保護建造物および国宝 一九〇〇年(明治三十三)四月八日……………	413
238	古社寺保存金管理規程 一八九八年(明治三十二)七月四日……………	412
237	古社寺等調査についての丹羽郡上申 一八九五年(明治二十八)八月一日……………	410
236	古社寺調査事項標準と愛知県訓令 一八九五年(明治二十八)四月……………	408
235	宝物鑑査状の下付 一八九二年(明治二十五)六月十日……………	407
234	宝物鑑査終了にあたっての八名郡長通達 一八九二年(明治二十五)三月三日……………	406
233	宝物取調方法についての八名郡照会 一八九二年(明治二十五)二月九日……………	405
232	三河調査再開についての県通牒 一八九二年(明治二十五)一月二十三日……………	405
231	三河調査延期についての県通牒 一八九〇年(明治二十三)十月二十九日……………	405
230	宝物取調方法についての中島郡照会 一八九〇年(明治二十三)十月二十七日……………	404
229	宝物番号についての県通牒 一八九〇年(明治二十三)十月十四日……………	404
228	宝物取調方法についての県通牒 一八九〇年(明治二十三)十月十二日……………	403
227	宝物取調委員来県についての知事通達 一八九〇年(明治二十三)十月十日……………	403
239	臨時全国宝物取調局の愛知県調査	

240 特別保護建造物・国宝の監守についての内務省通牒
一九〇二年(明治三十五)三月十四日……………413

三 名古屋離宮としての名古屋城

241 名古屋城の保存についての建議
明治五年(一八七二)六月七日……………414

242 名古屋城本丸の引渡および永続についての届書
明治五年(一八七二)九月二十五日……………415

243 名古屋城の活用についての吉田禄在意見書
一八八三年(明治十六)一月……………415

244 名古屋城の保存についての陸軍卿意見書
一八八三年(明治十六)七月二日……………418

245 名古屋城の宮内省移管についての請議
一八九三年(明治二十六)三月二十八日……………419

第六章 地域社会の管理と衛生・医療・性

第一節 警察制度の一断面——治安対策と衛生

246 犯罪人写真取扱規程
一八九一年(明治二十四)二月……………423

247 警察巡閲手続
一八九一年(明治二十四)三月二十日……………426

248 消毒薬溶解法
一八九四年(明治二十七)六月十一日……………433

249 伝染病予防消毒執行心得
一八九四年(明治二十七)七月九日……………436

250 駐在所及派出所内巡查心得
一八九四年(明治二十七)十一月五日……………438

第二節 衛生行政の展開と地域社会

一 伝染病の流行と衛生行政

251 衛生組合準則
一八八七年(明治二十)六月二十四日……………441

252 悪疫予防の件
一八八八年(明治二十二)六月十一日……………442

253 額田郡私立衛生会規則
一八八七年(明治二十)頃……………443

254 種痘名簿催促状
一八九〇年(明治二十三)五月三日……………445

255 種痘医山本良齋から接種日の通知
一八九〇年(明治二十三)五月……………445

256 役場から大字総代へ種痘接種日の通知
一八九〇年(明治二十三)五月十日……………445

257 愛知私立衛生会臨時総会
一八九〇年(明治二十三)七月三十日……………446

258 衛生組合設置標準並びに清潔法施行委員設置標準
一八九一年(明治二十四)八月五日……………446

259 名古屋市長の濃尾震災後の衛生注意
一八九一年(明治二十四)十一月七日……………448

260 衛生組合名及び組合長氏名報告書(抄)
一八九四年(明治二十七)……………449

261 清潔法施行の実施について
一八九四年(明治二十七)五月十七日……………449

262 伝染病予防法清潔法施行日並びに報告
一八九四年(明治二十七)五月二十七日……………450

263 警察署内に赤痢病予防委員を設置
一八九四年(明治二十七)六月一日……………451

275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264
名古屋及び豊橋陸軍予備病院救護報告 一八九五年(明治二十八)九月三十日……………	日清戦争における赤十字看護婦 一八九四年(明治二十七)九月十五日……………	医学校内に産婆養成所及看護婦養成所を附設(抄) 一八九四年(明治二十七)七月九日……………	産婆開業試験規則 一八九一年(明治二十四)八月八日……………	愛知病院・医学校沿革略 一九一五年(大正四)十一月三日……………	隔離室設計書報告 一八九七年(明治三十)八月十六日……………	伝染病院・隔離病室設置についての緊急報告 一八九七年(明治三十)八月十三日……………	大日本私立衛生会衛生事務講習所講習 一八九六年(明治二十九)五月一日……………	赤痢病流行につき会葬飲食物への注意 一八九五年(明治二十八)七月八日……………	避病院設備指定地 一八九五年(明治二十八)五月二十二日……………	赤痢病の注意予防の実効等を求める県訓令 一八九五年(明治二十八)三月十一日……………	赤痢病予防専務員配置についての県論達 一八九四年(明治二十七)六月二十三日……………
475	474	470	469	456	455	454	454	453	453	452	451

286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276
紹介人取扱規則 一八九六年(明治二十九)一月二十日……………	席貸茶屋に対する取締規則 一八九四年(明治二十七)七月十三日……………	悪質鞆旋業者による婦女海外渡航に関する訓令 一八九三年(明治二十六)二月十三日……………	遊廓移転について流言浮説の戒め 一九〇〇年(明治三十三)十一月二十四日……………	遊廓移転せず知事の断言 一九〇〇年(明治三十三)十月二十八日……………	公娼設置の建議可決 一八九七年(明治三十)十一月二十二日/二十三日……………	県会に於ける郡・区議員の決裂 一八九一年(明治二十四)四月十日……………	愛知県知事と郡部会対立に対する内務省裁定 一八九九年(明治二十二)二月二十六日……………	碧海郡産婆養成補助規程 一九〇三年(明治三十六)十二月九日……………	看護婦修業生への補助金 一九〇一年(明治三十四)四月五日……………	看護婦への賞与 一八九七年(明治三十)二月十七日……………
503	501	501	499	499	492	490	486	483	482	481

二 医療制度の整備

(1) 愛知病院と医学校

第三節 遊廓の管理

一 税収をめぐる対立

二 移転をめぐる対立

三 性風俗業の管理

287 名古屋の娼妓廃業と司法・行政
一八九九年(明治三十二)十二月二十五日……………505

第七章 帝国化の中での軍事行政

第一節 第三師団の成立

288 師団司令部条例
一八八八年(明治二十)五月十二日……………515

289 陸軍常備団隊配備表
一八八八年(明治二十)五月十二日……………517

290 陸軍管区表
一八八八年(明治二十)五月十二日……………517

291 練兵場用地として上名古屋村地所買取
一八八九年(明治二十)三月二十八日……………518

292 練兵場用地売却の徳川家に替地として小牧山払下げ
一八八九年(明治二十)七月二十四日……………520

293 徴兵に関する桂第三師団長の談話
一八九三年(明治二十)一月十一日……………522

294 守山村の新設聯隊
一八九七年(明治三十)四月十日……………525

第二節 陸軍演習の本格格化

295 知多郡徴兵慰勞会の行軍補助費決算
一八八九年(明治二十)一月三十一日……………526

296 陸海軍聯合大演習に関する知事論達
一八九〇年(明治二十)三月十七日……………527

297 知事論達の趣旨徹底についての県訓令
一八九〇年(明治二十)三月十七日……………527

298 陸海軍聯合大演習に関する中島郡論達
一八九〇年(明治二十)三月二十日……………528

299 陸海軍聯合大演習実施に関する注意事項
一八九〇年(明治二十)三月二十五日……………528

300 大演習補給費戸数割賦課額
一八九〇年(明治二十)七月九日……………530

301 陸軍演習と地域
一八九〇年(明治二十)……………531

302 陸軍演習による損害に対する請求書
一八九一年(明治二十四)六月十一日/七月二十五日……………533

303 借上馬匹に対する補償
一八九二年(明治二十五)十月二十七日……………535

304 軍隊行軍演習についての事務取扱手続
一八九八年(明治三十)二月十日……………536

第三節 軍事行政の展開と混乱

305 町村制施行と徴兵事務
一八九〇年(明治二十)……………541

306 額田郡における徴兵抽籤延期
一八九二年(明治二十五)六月十日……………541

307 大隊区司令官よりの協議事項
一八九三年(明治二十)一月十六日……………542

308 第一回陸軍召集事務講習報告
一八九三年(明治二十)十二月……………548

309 服役に関する軍人父兄町村長の不心得につき聯隊副官より内牒
一八九六年(明治二十九)八月二十五日……………551

310 徴兵令未行地北海道への徴兵忌避者寄留
一八八四年(明治十七)八月二十日……………551

311	徴兵令未行地への転籍に関する調査 一八九三年(明治二十六年)五月二十二日……………	553
312	徴兵令未行地への転籍に関する調査 一八九四年(明治二十七年)四月三十日……………	554
313	徴兵令未行地沖繩県への徴兵忌避者失踪 一九〇四年(明治三十七年)四月十四日……………	556
第四節 徴兵慰勞会の活動の破綻		
314	知多郡徴兵慰勞会の義捐金募集中止 一八九〇年(明治二十三年)八月十三日……………	560
315	五人組を基礎とする徴兵慰勞会委員選挙 一八九〇年(明治二十三年)十月二十九日……………	561
316	伍長設置規則の消滅 一八九〇年(明治二十三年)十二月十二日……………	561
317	額田郡徴兵慰勞会金収支決算 一八九三年(明治二十六年)十二月……………	561
318	額田郡徴兵慰勞会費決算表 一八九六年(明治二十九年)……………	564
319	知多郡徴兵慰勞会持統法協議案 一八九三年(明治二十六年)十月……………	565
320	下山村愛国護報会規則の制定 一八九四年(明治二十七年)八月……………	566
321	兵員家族贈与金徴集元帳 一八九四年(明治二十七年)十月……………	568
322	中島郡徴兵慰勞会および尚武会の解散 一八九四年(明治二十七年)十一月十三日……………	575

第八章 日清戦争への対応とその影響

第一節 開戦と戦争への対応

323	日清開戦に関する知事論述 一八九四年(明治二十七年)八月一日……………	579
324	日清開戦に伴う神官神職の不穩行為を制止する知事内訓 一八九四年(明治二十七年)八月二日……………	579
325	広島ニ於ケル第三師団各營中ノ情况報告(抄) 一八九四年(明治二十七年)九月十日……………	580
326	歩兵第十八聯隊將校による安東県からの戦報 一八九四年(明治二十七年)十一月十二日……………	581
327	軍用人夫の監視についての第三師団長訓令 一八九四年(明治二十七年)十二月一日……………	583
第二節 軍事徴発と軍資献納		
一 義勇軍運動		
328	義勇軍従軍願 一八九四年(明治二十七年)七月二十一日……………	585
329	従軍願却下に付人夫志願 一八九四年(明治二十七年)七月二十九日……………	586
330	愛知誠忠義団の組織 一八九四年(明治二十七年)八月八日……………	586
331	非役帶勲同盟会と人夫募集の混乱 一八九四年(明治二十七年)八月十八日……………	587
332	豊橋正義隊 一八九四年(明治二十七年)九月二十一日……………	588

二 軍役夫動員

333	従軍者遺族へ手伝人夫賃贈与ならびに金額徴収方法 一八九四年(明治二十七年)……………	589
334	徴発用の軍夫名簿 一八九四年(明治二十七年)七月十八日……………	589
335	朝鮮行人夫抽籤につき大紛擾 一八九四年(明治二十七年)七月二十六日……………	591
336	中島郡下津村における軍用人夫雇入れ依頼状 一八九四年(明治二十七年)七月二十六日……………	591
337	中島郡下津村における軍用人夫雇入れ契約証 一八九四年(明治二十七年)七月二十六日……………	592
338	中島郡下津村における軍用人夫雇入れ請書 一八九四年(明治二十七年)七月二十六日……………	592
339	中島郡行政機構による軍役夫募集 一八九四年(明治二十七年)……………	593
340	軍役夫採用願 一八九四年(明治二十七年)七月……………	594
341	人夫請負の大失策 一八九四年(明治二十七年)八月十九日……………	595
342	軍夫紛擾顛末 一八九四年(明治二十七年)九月……………	597
343	軍役夫の帰国嘆願書 一八九五年(明治二十八年)一月二十二日……………	598
三 馬匹徴発の本格化		
344	買上馬匹価格をめぐる紛議 一八九四年(明治二十七年)八月十三日……………	599
345	知多郡・愛知郡での馬匹徴発 一八九五年(明治二十八年)二月八日……………	601

四 軍資献納と軍事公債募集

346	(1) 軍資献納 町村共有金からの軍資金献納に関する県告示 一八九四年(明治二十七年)九月一日……………	608
347	軍資献納金及恤兵報告表作成の様式 一八九四年(明治二十七年)九月十三日……………	608
348	軍資金献納報告書未提出の下津村に対する照会 一八九四年(明治二十七年)十月五日……………	609
349	郡市別軍資金献納額(明治二十七年七月―九月) 一八九四年(明治二十七年)十一月五日……………	610
350	郡市別軍資金献納額(明治二十七年七月―二十八年三月) 一八九五年(明治二十八年)三月二十五日……………	611
351	郡市別恤兵献納金額 一八九五年(明治二十八年)十月十四日……………	612
(2) 軍事公債募集		
352	町村財産による軍事公債購入を奨める達 一八九四年(明治二十七年)八月二十七日……………	613
353	第二回軍事公債募集に対する町村の尽力要請 一八九四年(明治二十七年)十一月二十六日……………	614
第三節 捕虜		
354	第一、第三師団長の留守第五師団長への訓令按 一八九四年(明治二十七年)八月二十三日……………	615
355	留守第三師団長へ訓令按 一八九四年(明治二十七年)九月十八日……………	615
356	名古屋豊橋捕虜廠舎の設置 一八九四年(明治二十七年)十月十四日……………	615

368	日清戦争に関する慰勞金収支決算 一八九六年(明治二十九)十二月二十一日……………	648
367	軍役夫に対する徴兵慰勞金贈与 一八九五年(明治二十八)十一月……………	647
366	軍役夫待遇改善の措置 一八九五年(明治二十八)七月一日……………	646
二 軍役夫の処遇		
365	戦捷祝賀会の光景 一八九四年(明治二十七)十二月五日……………	642
364	戦捷大祝賀会発起会の決議 一八九四年(明治二十七)十一月二十一日……………	642
第四節 戦争の終結		
一 戦捷祝賀会		
363	軍役夫捕虜中の給料支給方の件 一八九五年(明治二十八)十月十二日……………	640
362	名古屋豊橋捕虜救護結束報告 一八九五年(明治二十八)……………	637
361	日本人捕虜の取調書 一八九五年(明治二十八)九月二日……………	634
360	豊橋俘虜構外運動取締法実施報告 一八九五年(明治二十八)三月十六日……………	633
359	名古屋豊橋俘虜廠舎収容人名簿・身上異動 一八九五年(明治二十八)二月十九日……………	618
358	建中寺における捕虜清兵の状況 一八九四年(明治二十七)十一月五日……………	616
357	豊橋における捕虜 一八九四年(明治二十七)十月二十三日……………	616

380	徴兵失踪者搜索方に関する額田郡役所の通達 一九〇三年(明治三十六)一月十四日……………	660
379	簡閲点呼につき聯隊区司令官より部落長へ依頼 一九〇二年(明治三十五)八月十四日……………	659
378	下山村愛国護報会の解散と下山村尚武会の設置 一九〇〇年(明治三十三)四月二十六日……………	659
377	入営・除隊時の送迎における浪費に関する内訓 一八九九年(明治三十二)十一月二十七日……………	658
376	兵卒の金銭取寄費消についての歩兵第六聯隊長通達 一八九九年(明治三十二)七月三十一日……………	656
375	軍事思想の一層の發達についての知事通達 一八九七年(明治三十)八月七日……………	656
四 軍事思想強化		
374	行賞賜金に関する第三師团长訓令 一八九五年(明治二十八)十一月二十日……………	654
373	従軍者家族賑恤者賞与についての県内務部長通牒 一八九五年(明治二十八)七月二十四日……………	654
372	戦死者及従軍中病死者遺族扶助方法一覽表 一八九五年(明治二十八)一月二十二日……………	652
三 従軍者家族の救護		
371	軍夫建碑式の模様 一八九九年(明治三十二)五月九日……………	651
370	軍夫招魂紀念碑建設義捐金広告 一八九七年(明治三十)四月二十八日……………	651
369	軍役夫に関する第三師団の改良意見 一八九五年(明治二十八)十二月……………	650

第九章 日露戦争と帝国体制

第一節 日露戦争開戦とその後の推移

一 開戦と戦意昂揚

381	開戦に際しての県通達・知事訓令一・二・三 一九〇四年(明治三十七)二月十日/十一日……………	663
382	開戦直後の動員に対する在郷軍人などの反応の調査依頼 一九〇四年(明治三十七)二月十九日……………	664
383	国民的後援大演説会 一九〇四年(明治三十七)三月八日……………	666
384	国民の狂酔を警しむ 一九〇四年(明治三十七)三月十二日……………	667
385	努力せよ義軍国の農民 一九〇四年(明治三十七)五月……………	669

二 宣戦布告と国際法

386	ロシア艦の「無礼」 一九〇四年(明治三十七)二月十三日……………	671
387	「文明の敵」としてのロシア像 一九〇四年(明治三十七)二月十七日……………	671
388	捕虜来名についての名古屋市長よりの注意 一九〇四年(明治三十七)十一月十六日……………	673
389	捕虜慰安のための寄贈の勧誘 一九〇四年(明治三十七)十二月四日……………	675
390	捕虜の市中散歩 一九〇五年(明治三十八)一月九日……………	676

三 捕虜の処遇

第二節 戦争の進行と動員の拡大

一 動員の拡大

391	捕虜将官の待遇に関する陸軍省内訓についての記事 一九〇五年(明治三十八)一月十三日/十四日……………	676
392	捕虜輸送につき部内人民への訓戒に関する照会 一九〇五年(明治三十八)一月二十七日……………	677
393	捕虜の「暴慢」 一九〇五年(明治三十八)三月十九日……………	677
394	捕虜増員を請願する豊橋町民有志 一九〇五年(明治三十八)六月十九日……………	678
395	予備役後備役の動員 一九〇四年(明治三十七)三月三十一日……………	680
396	在郷者召集にともなう軍人会停止の通知 一九〇五年(明治三十八)一月三十一日……………	681

二 軍資献納と公債応募

397	(1) 軍資献納と恤兵品寄贈 宣戦前の軍資献納 一九〇四年(明治三十七)一月五日……………	682
398	小学生の軍資献納に関する県内務部長の通牒 一九〇四年(明治三十七)三月二日……………	682
399	奉公美談 一九〇四年(明治三十七)三月二十日……………	683
400	「下層社会」からの資金の吸集 一九〇四年(明治三十七)九月二十日……………	684
401	毛布募集趣意書 一九〇四年(明治三十七)十月八日……………	685

413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402
戦死者遺族への下賜金保管に関する依命通牒 一九〇四年(明治三十七)十月二十四日……………	下賜金の不正請求防止を指示する依命通牒 一九〇四年(明治三十七)九月二十七日……………	戦地からの手紙 一九〇五年(明治三十八)二月二十日……………	軍事郵便の手続きの周知についての通達一・二 一九〇四年(明治三十七)五月二十八日/十二月十三日……………	軍事郵便についての出征兵士家族への注意事項 一九〇四年(明治三十七)五月十四日……………	国債の応募不能を伝える九日市場村長回報 一九〇五年(明治三十八)二月十五日……………	郵便局貯金の増加 一九〇四年(明治三十七)八月十日……………	軍資金の献納について 一九〇四年(明治三十七)五月二十九日……………	国債募集の督励 一九〇四年(明治三十七)三月十一日……………	小学生の貯蓄強制についての県内務部長の通牒 一九〇四年(明治三十七)三月十一日……………	国民に警告す 一九〇四年(明治三十七)二月二十一日……………	恤兵品寄贈についての注意事項通達 一九〇四年(明治三十七)十二月六日……………
702	702	701	699	697	696	694	693	691	690	689	687

(2) 公債応募・郵便貯金

四 下賜金の交付

425	424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414
軍人遺族への無料診療の廃止 一九〇五年(明治三十八)二月二十八日……………	出征軍隊歓送迎への出頭を求める通知 一九〇五年(明治三十八)二月二十一日……………	馬匹徴発強化を求める依命通牒 一九〇四年(明治三十七)十一月十二日……………	戦意の冷却を危惧し増産を促す依命通牒 一九〇四年(明治三十七)九月二十九日……………	帰郷兵に対する内密調査報告(抄) 一九〇四年(明治三十七)三月二十四日……………	地租制限外課税の許可の稟請書および理由書 一九〇五年(明治三十八)四月十一日……………	時局が教育に及ぼした影響調査報告 一九〇四年(明治三十七)六月三日……………	冷淡なる国民教育 一九〇四年(明治三十七)六月三日/四日……………	戦争経済のもとでの困窮者調査報告 一九〇四年(明治三十七)四月二十五日……………	戦争の対中国・韓国貿易に及ぼした影響 一九〇四年(明治三十七)四月十二日……………	知多郡に於ける戦争の影響 一九〇四年(明治三十七)四月八日……………	下賜金保護に関する八名郡長の報告 一九〇四年(明治三十七)十一月十九日……………
719	718	718	717	716	715	713	709	709	707	707	704

第三節 戦争の諸矛盾と行政の対応

一 地域社会への影響

三 碧海郡西端村にみる戦病死者葬儀

- 426 戦病死者葬儀に関する規定および通牒
一九〇四年(明治三十七)六月十四日……………720
- 427 戦病死者葬儀の簡略化についての碧海郡尚武会通知
一九〇五年(明治三十八)一月二十四日……………725

四 出征軍人遺家族の困窮とその救護

- 428 尚武会の戦時事業
一九〇四年(明治三十七)二月二十三日……………726
- 429 家族救助と内務省の訓示
一九〇四年(明治三十七)四月六日……………727
- 430 出征軍人家遺家族救済事業
一九〇四年(明治三十七)六月二十八日……………728
- 431 従軍者家族の窮状と扶助
一九〇四年(明治三十七)七月八日……………729
- 432 従軍者家族の窮状と扶助(続)
一九〇四年(明治三十七)七月十五日……………730
- 433 軍人家族に対する生業扶助の方針
一九〇四年(明治三十七)八月十四日……………731
- 434 愛国婦人会による戦死者遺族等調査の指示
一九〇四年(明治三十七)十一月七日……………732
- 435 愛国婦人会による軍人遺族の現況調査(抄)
一九〇四年(明治三十七)十一月十四日……………733
- 436 愛知婦人国恩会の設立と活動
一九〇四年(明治三十七)五月二十二日/二十六日……………734
- 437 愛知婦人国恩会の会員獲得情況
一九〇四年(明治三十七)九月八日……………735
- 438 愛知婦人国恩会の授産事業(抄)
一九〇五年(明治三十八)一月十一日……………735

- 439 下士兵卒家族救助規程および取扱手続(抄)
一九〇五年(明治三十八)五月十二日……………736

- 440 出征軍人家族の「惨劇」
一九〇五年(明治三十八)九月十日……………739

第四節 戦争の終結

一 戦争の終結

- 441 捕虜の大恐悦
一九〇五年(明治三十八)九月二日……………741
- 442 戦後経営と国民の負担
一九〇五年(明治三十八)九月六日……………741
- 443 伊良湖村民の移住
一九〇五年(明治三十八)九月十七日……………742
- 444 凱旋軍人待遇に関する件
一九〇五年(明治三十八)十月十二日……………742
- 445 凱旋軍隊歓迎等に関する件
一九〇五年(明治三十八)十月二十五日……………743

二 戦後の遺家族援護

- 446 帰郷軍人の職業復帰などの指導を命じる知事訓令
一九〇五年(明治三十八)十月三十一日……………745
- 447 戦後の遺家族救護に関する報告(抄)
一九〇六年(明治三十九)十二月……………745

第十章 戦争の記念・記憶化という政治

第一節 日清戦争と戦争の記念・記憶化

一 戦争報道と戦争の記憶化

448	入韓日記―扶桑新聞従軍記者による戦地朝鮮記事― 一八九四年(明治二十七年)八月―九月……………	753
449	従軍記者からの戦場報道につき扶桑新聞社告 一八九四年(明治二十七年)九月十一日……………	757
450	扶桑新聞従軍記者による戦闘描写 一八九四年(明治二十七年)十月……………	758
451	豆喰連中存する者余一人 一八九四年(明治二十七年)十月十三日……………	760
452	従軍記者による平壤激戦実見報告演説会の景況 一八九四年(明治二十七年)十月二十日……………	761
453	熱田の平壤戦実況報告演説及懇親会景況 一八九四年(明治二十七年)十月二十五日……………	761
二 戦没者慰霊と「美談」の収集		
(1) 戦没者慰霊をめぐる		
454	表忠会による招魂祭・慈善事業についての県会の議事 一八九五年(明治二十八年)六月十七日/二十一日……………	765
455	宝飯郡長より郡内戦死病死者招魂祭執行につき申請 一八九五年(明治二十八年)七月二十四日/一八九六年 (明治二十九年)十月三十日……………	775
456	軍人招魂祭並に軍人慰勞会報告 一八九六年(明治二十九年)一月十六日……………	775
(2) 「美談」の収集		
457	精神教育のための歩兵第十九聯隊史編纂 一八九七年(明治三十一年)一月十五日……………	777
458	歩兵第十九聯隊史編纂美談雛形 一八九七年(明治三十一年)二月九日……………	778
459	日清戦争で忠君愛国の精神を發揚した事跡調査 一八九八年(明治三十一年)六月三十日……………	779

三 戦争記念碑建設活動		
(1) 第一軍戦死者記念碑建設活動		
460	第一軍戦死者記念碑建設費募集趣意書 一九〇〇年(明治三十三年)六月……………	781
461	第一軍戦死者記念碑建設費配当表 一九〇〇年(明治三十三年)六月……………	782
462	第一軍戦死者記念碑 一九〇〇年(明治三十三年)七月十八日……………	783
463	征清記念碑建設費募集方法協議の件 一九〇〇年(明治三十三年)九月十七日……………	784
464	記念碑除幕式と寄附金の不足 一九〇三年(明治三十六年)四月五日……………	784
465	記念碑除幕式と費用問題 一九〇三年(明治三十六年)四月二十四日……………	784
466	戦死者記念碑竣工式 一九〇三年(明治三十六年)五月六日……………	786
467	記念碑建設につき山形県より照会 一九〇三年(明治三十六年)十一月十四日……………	789
(2) 県内各地における記念碑建設活動		
468	忠魂記念堂建設の着手(岡崎町) 一八九七年(明治三十一年)一月七日……………	789
469	従軍記念碑建設式(知多郡上阿久比村) 一八九七年(明治三十一年)三月十七日……………	790
470	征清記念碑建設式(額田郡深溝村) 一八九七年(明治三十一年)四月八日……………	790
471	知多郡佐布里村の征清記念碑と建碑式典 一八九七年(明治三十一年)……………	791

472	蒲郡の征清記念碑	1897年(明治三十)四月二十五日	794
473	豊橋記念碑と神武天皇銅像	1898年(明治三十)八月十八日	795
第二節 日露戦争と戦争の記念・記憶化			
一 戦果の展示			
474	名古屋市尚武会からの戦利品拝借願について	1905年(明治三十八)九月二十一日	796
475	名古屋博物館での戦利品の陳列	1905年(明治三十八)十月五日	797
476	戦利品陳列会の延長	1905年(明治三十八)十一月一日	799
477	戦利艦貸下願及び公園開設届についての陳情書の件	1906年(明治三十九)十一月五日	799
二 戦没者慰霊をめぐって			
478	第三師団臨時招魂祭	1905年(明治三十八)五月七日/八日	805
479	豊橋臨時招魂祭	1905年(明治三十八)五月九日/十日	807
480	出征軍人戦亡者英霊吊慰会祭文写の配布	1905年(明治三十八)五月二十四日	808
481	佐布里村出身兵士の合同葬儀通知	1905年(明治三十八)七月二十三日	812
482	戦死者建碑の件についての通牒	1905年(明治三十八)八月十六日	812
483	招魂祭執行についての野戦師団長意嚮内牒案	1905年(明治三十八)十二月十九日	814

484	靖国神社参拝遺族等証明についての通達	1906年(明治三十九)四月十七日	815
三 記念活動と都市計画			
485	戦捷記念公園	1905年(明治三十八)五月三十一日	817
486	戦捷記念公園論(承前)	1905年(明治三十八)七月二十二日	818
487	戦捷記念館を建設す可し	1905年(明治三十八)十二月十七日	819